

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	300A	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.570	△RG	0.029	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：300A

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

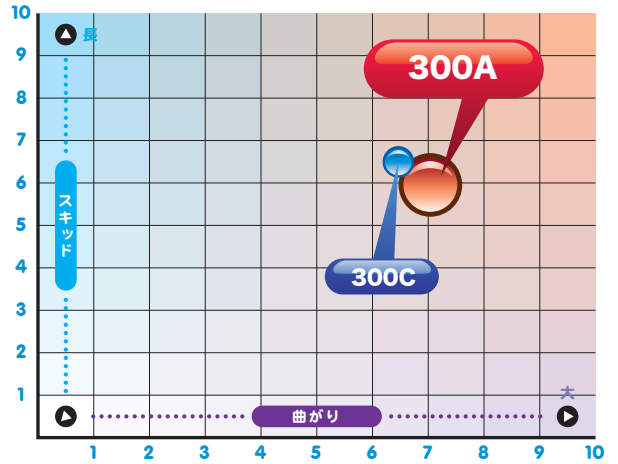
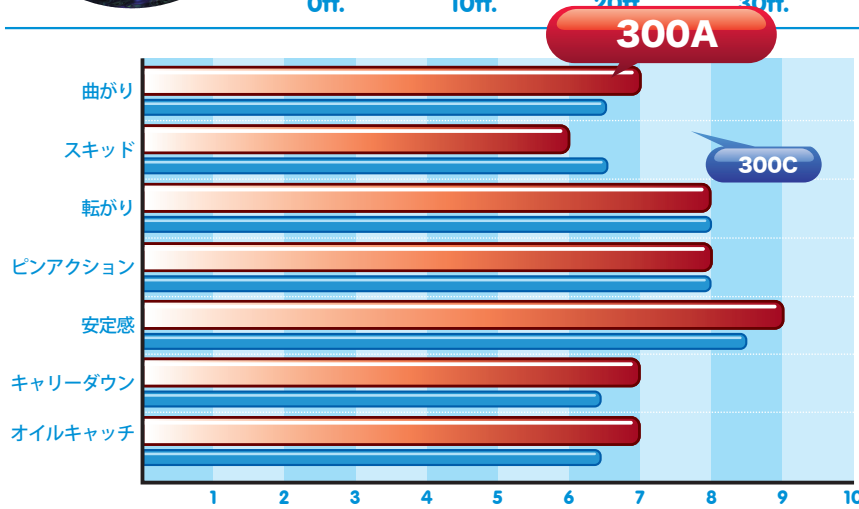
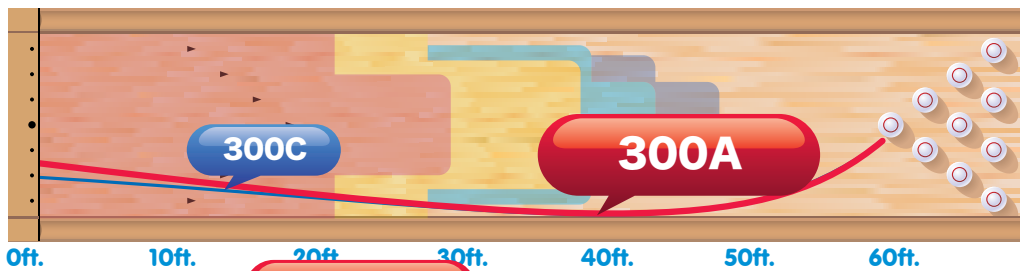
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：300C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



ボールの評価

トラック社ナンバーシリーズで最もライトコンディション用に仕上げられている”3”シリーズ。前作300Cは軽快なスキッドとcontrolを軸とした、文字通り扱いやすいバックエンドモーションが多くの人に受け入れられました。今回リリースする300Aは性能分布をControlからAngularに変更することで、バックエンドリアクションを強化し、Angularの特徴でもある鋭い入射角は、パーフェクトなストライクを演出できる性能として開発されました。

300Cとの比較投球で感じたことは、オイルゾーンでのスキッド感は同じように感じるのですが、300Aのほうがやや曲がり幅自体は大きくなっていくようにも思いました。それは300C当時から今までの歳月はカバーストックを構成するケミカルも進化し、グリップ力が高められたことが結果としてバックエンドリアクションの大きさの差として表されたのでしょう。今回の”A”は角が出て切れるイメージというよりは、ピンヒットまで柔らかいフリップ状のシャープな切れ味が特徴的で”3”シリーズになっても積極的にラインを攻め、ストライクアングルを取れるようにしています。またミディアムライトなコンディションでの安定感も強化され、リーグやトーナメントで活躍するためには、「持つべきボール」ではなく「持つておかなければならないボール」であると感じていただけるでしょう。

”3”の領域のカバーストックのボールと考えると、コンディションが遅くなってからの最終兵器の使用用途と考えてしまいがちですが、ロフトエリアが薄いコンディションやショートなコンディション等にもこの300Aは数多く出回っているミディアムコンディション用ボールとは明らかな違いを感じさせてくれるでしょう。

特記事項

久々に登場したトラック社”3”シリーズ。今度の3シリーズは”A”タイプで発売し、メリハリのあるリアクションがミディアムライトなコンディションで攻撃的にラインを攻める仕上がりです。